

小倉記念病院 循環器内科だより

つなぐ

Vol.13

2017.1月

チエコのプラハで留学を終え、一人の医師が帰国した。

小倉記念病院で生まれ、初期研修医から現在まで

当院のアプローチチームで研鑽を積んできた、

循環器内科医 福永真人である。

なぜ、彼は症例数を順調に積み重ねているなか、
チエコへの留学の道を選んだのか。

彼は学生時代、世界を旅するバックパッカーだった。
その旅は、日本そして自分自身を客観的に見つめる
大きな経験となった。

日本の医療も、一度外から見てみる必要があると
感じていた。そのために、不整脈の最新治療を
行なっているチエコを最善の地として選んだ。

そこで、世界で初めて誕生する治療法に触れながら、
臨床にも参加することができた。

さらに、二例二例、常に正しい治療とは何かを追い求め、
新たなチャレンジを続ける仲間たちがそこにいた。

今、彼は海外の治療法を継承するだけでなく、
一つひとつの症例を大切に、チャレンジする精神を
これまで以上に根付かせようとしている。

不整脈治療を世界水準の医療へとつなげるために、
新たなスタートをきったのだ。

